

金沢医科大学女医会

水月会総会

女性総合医療センター開設記念会

平成21年度水月会総会が平成21年6月12日(金)、ホテル金沢にて開催された。今回はさらに女性総合医療センター開設記念の祝賀会も兼ねて行われ、約90名の出席者を迎え、盛大な会となった。

平成6年7月に発足した金沢医科大学女医会「水月(みなづき)会」は昨年15周年を迎え、記念大会を開催した。今年は初期研修医として新しい出発を始めた6名の新人会員が加わり、女性医師会員が107名に達した。

水月会は昨年7月に金沢医科大学の北辰同窓会の女性部会として承認され、同窓会に付属したことによって、女子医学生も会員として加わった。その記念すべきに第1学年生から第5学年生までの女子学生26名が参加してくれ、若い活気のある会となった。特に第5学年生は17名が集結し、水月会の新たな力を感じた。

特別講演として厚生労働省中部北陸厚生局長の麦谷

眞里氏を迎えた。タイトルは「これからの日本の医療」で、医療側と受ける側とのバランスを保った医療の大切さを講演された。

本学病院では2003年3月より“女性の生涯にわたる健康のサポートをめざして”と、石川県では初めての女性外来が開設され注目が集まった。6年を経てスタッフとともに診療内容が充実し、女性総合医療センターが今年の4月に開設された。女性医師というキーワードで水月会と繋がり、金沢医科大学ならではの臨床の場、女性医師育成の場、女子医学生の啓発の場になることは確実である。

出席者は山下公一理事長、松本忠美副理事長、山田裕一学長をはじめ多数の理事、松井 忍21世紀集学的医療センター長、北辰同窓会からは吉田勝明本学理事と小西啓子先生、石川県の女性支援の関係者、医療ジャーナリスト増田美加氏を来賓としてお迎えし、記念会は盛会裡に終了した。この会の模様はテレビでも放映され、新聞にも掲載された。昨年に続き、水月会の発展と女性総合医療センターにかける期待の大きさの証しだと思われる。一同が、金沢医科大学女性医師の価値と、あとに続く女子医学生の存在を再認識できた貴重な機会であった。

(水月会会長・氷見市民病院耳鼻咽喉科 鈴鹿有子記)



第16回水月会総会参加者で記念撮影

→で、時々関西出身らしいユーモアを交えながら、タバコの害や受動喫煙の恐ろしさについてお話をされた。なかでも受動喫煙の目に見えない煙のビデオは特に衝撃的で、受講者の反応が強かった。講演会当日は快晴のためか特に聞いてほしい若い受講

者が少なく残念だったが、今回の講演を機会に数人の方が禁煙を希望されたこともあり、これからもこのような禁煙の講演を地道に続けていくことが大切であると改めて感じた。(健康管理センター 中西由美子記)